

千葉県八千代市

殿内遺跡 f 地点

— 建売住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

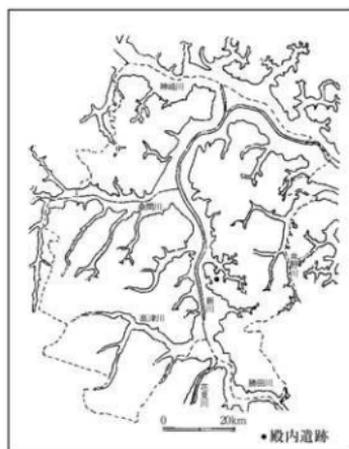
2018

川 嶋 一 永

八千代市教育委員会

千葉県八千代市
とのうち
殿内遺跡 f 地点

— 建売住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —



2018

川嶋一永

八千代市教育委員会

凡 例

- 1 本書は、八千代市村上字殿ノ内1571-1他に所在する殿内遺跡f地点の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、確認調査を国庫・県費補助事業として、本調査については、民間開発等埋蔵文化財調査事業として、事業者より調査協力金を納付いただき、八千代市教育委員会の委託事業として実施した。
- 3 発掘調査・本整理作業は以下のとおりである。

調査

第1次確認調査 期間 平成28年12月13日～12月16日 面積 42㎡/300㎡ 担当 森 竜哉

第2次確認調査 期間 平成29年6月5日～6月12日 面積 110.5㎡/721.9㎡ 担当 森 竜哉

本調査 期間 平成29年7月13日～8月23日 面積246㎡ 担当 森 竜哉

調査補助員 板橋三郎・伊藤衣莉加・内田紀子・桐原誠・塚坂雄志・鈴木一代・高木秀夫
鳥羽良子・萩原雄一・橋本喜正・長谷川恵理子・原田雪子・蛭間裕子・室中勝典
森田耕平・山本みつ江・林和也・稲田晃・山田俊二

整理

図版作成・執筆 期間 平成29年9月13日～平成29年12月28日 担当 森 竜哉

整理補助員 小弓場直子・八幡奈緒子・玉井庸弘

- 4 本書の編集は森が、執筆は、玉井が第2章第1節と第3章第1節を、それ以外を森がおこなった。
- 5 現場の遺構、遺物及び報告書掲載の遺物写真は森が撮影した。
- 6 本書の作成・刊行については、整理補助員と森が協力して行い、森が統括した。
- 7 出土遺物、実測図等の資料は、八千代市教育委員会が保管している。
- 8 本書の遺構番号は、発掘調査時の番号を使用している。
- 9 遺構・遺物の縮尺は、下記のとおり統一しているが、位置図・全体図等は別記した。

[遺構] 竪穴建物跡 (D) 1/60・同カマド1/30・ビット (P) 1/30

[遺物] 土器、石製品、鉄器等1/4

- 10 遺物実測図の中軸線サイドの空きは、復元実測を示す。
- 11 遺物実測図の実測番号脇の数字は、床面からの高さを表す。(cm)
- 12 遺構・遺物のスクリーントーンは下記のとおり統一した。
 カマド火床部・赤彩  カマド袖・須恵器・黒色処理

- 13 本書使用の地形図は下記のとおりである。

第1図 八千代市発行 1/10,000八千代都市計画基本図

第2図 八千代市発行 1/2,500八千代都市計画基本図

- 14 発掘調査から整理作業において下記の諸氏・機関にご指導、ご協力いただきました。記して感謝いたします。(敬称略)

川嶋一永 千葉県教育庁文化財課

本文目次

凡 例

第1章 序説

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	1
第3節 周辺の遺跡	1
第2章 検出された遺構と遺物	
第1節 縄文時代	5
第2節 奈良・平安時代	6
第3節 ビット	15
第3章 まとめ	
第1節 縄文時代	17
第2節 奈良・平安時代	17

挿図目次

第1図 殿内遺跡周辺の遺跡	2	第9図 02D出土遺物(2)	10
第2図 調査地点	3	第10図 03D遺構実測図	11
第3図 殿内遺跡「地点遺構配置図	4	第11図 03D出土遺物	12
第4図 01P遺構実測図・出土遺物	5	第12図 04D遺構実測図・出土遺物	13
第5図 遺構外出土の縄文式土器	5	第13図 05D遺構実測図	14
第6図 01D遺構実測図・出土遺物	7	第14図 05D出土遺物	15
第7図 02D遺構実測図	8	第15図 02P～05P遺構実測図・出土遺物	16
第8図 02D出土遺物(1)	9		

図版目次

図版1 遺構 [遺跡全景・01D・02D]
図版2 遺構 [03D・04D・05D・01P・02P]
図版3 遺構 [04P・05P]・遺物 [縄文・01D・02D(1)]
図版4 遺物 [02D(2)・03D(1)]
図版5 遺物 [03D(2)・04D・05D・03P]

報告書抄録

第1章 序 説

第1節 調査に至る経緯

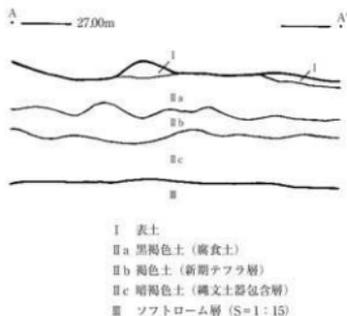
詳細は市内遺跡発掘調査報告に譲るが、平成28年10月、川嶋 一永 氏（以下事業者という）から、宅地造成を予定する旨で「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」の文書が八千代市教育委員会に提出された。確認地は、市遺跡No203殿内遺跡の範囲内であり、土器の散布もみられることから、同年12月及び29年6月に確認調査を実施した。その結果、奈良平安時代竪穴建物跡4棟等が検出され、その後の協議により記録保存の措置をとることとなり、協定書・委託契約書の締結等諸準備が整った平成29年7月本調査に着手した。

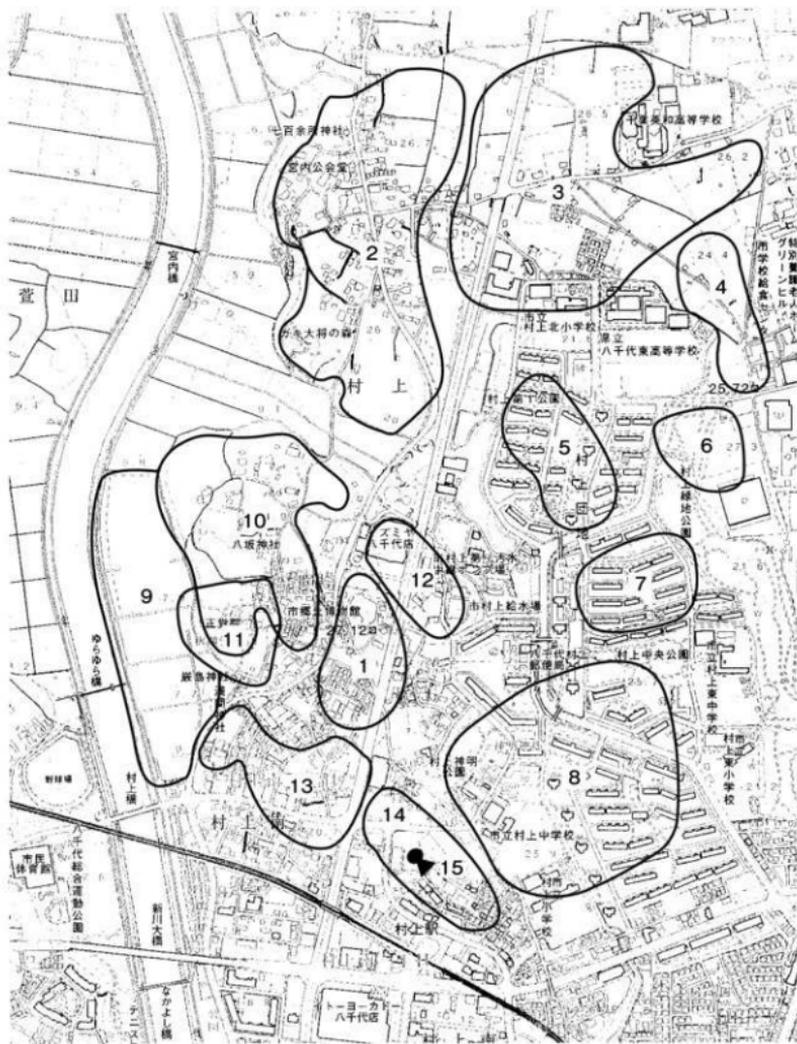
第2節 調査の方法と経過

調査期間は7月13日～8月23日で、7月13日～14日重機による表土剥ぎ、19日遺構プラン確定後、20日から竪穴建物跡等遺構調査に移行した。トータルステーションによる遺物取り上げ及び平面図作成を並行して行い、進捗状況を考慮しつつ、竪穴建物跡のカマド調査を行った。個別遺構調査終了後に全体写真撮影を行い調査を完了とした。この間、進捗状況を考慮しながら、出土遺物の水洗・注記を進めた。なお確認調査の知見から、表土下に新期テフラ層及び暗褐色土が堆積しており、奈良平安時代の遺構は暗褐色土層上面で遺構プランの確定が可能であることから、暗褐色土中を確認面とした。また、同土層は縄文土器の包含層であることを考慮し、部分的にソフトロームまで下げて遺構の把握に努めた。

第3節 周辺の遺跡（第1図）

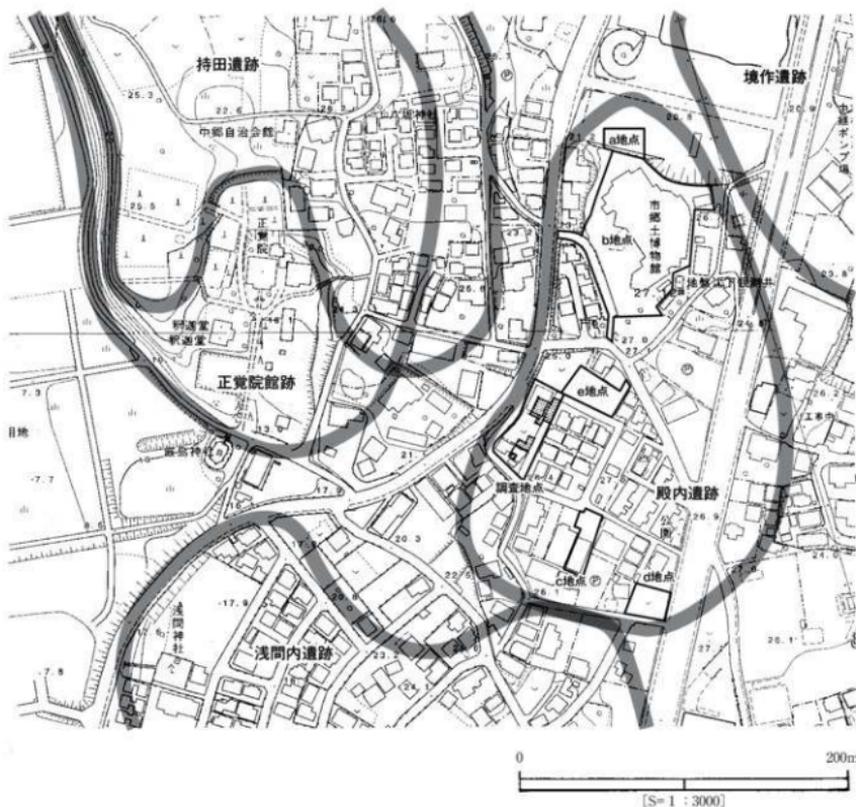
村上地区においては、2の村上宮内遺跡では縄文時代中後期の土器片・古墳時代前期竪穴建物跡群・奈良平安時代土器須恵器が検出され、3の西山遺跡では古墳時代前期及び平安時代の竪穴建物跡各々3棟が調査により判明している。4の大塚遺跡・5の村上向原遺跡・6の大塚南遺跡では詳細は明確ではないが、弥生時代後期・奈良平安時代の遺構が検出されている。7の名主山遺跡では、弥生時代後期の竪穴建物跡1棟、平安時代の竪穴建物跡5棟・掘立柱建物跡6棟が調査されている。8の村上込ノ内遺跡では奈良・平安時代の竪穴建物跡155棟・掘立柱建物跡24棟を主体に旧石器時代、弥生時代後期の遺構・遺物が検出された。9の浅間下遺跡では試掘が実施されたが、遺構は検出されていない。10の持田遺跡においては、平成5年の調査で古墳時代後期の竪穴建物跡13棟等の成果がある。11の正覚院館跡では、4回の調査において中世鎌倉期から戦国期にかけての貿易陶磁・銅製花瓶等中世城館、寺院にかかる遺構・遺物が発見された。12の境作遺跡では、古墳時代後期及び奈良平安時代の竪穴建物跡13棟が調査され、13の浅間内遺跡・14の白筋遺跡では区画整理事業に先行した調査において、奈良平安時代の竪穴建物跡68棟・掘立柱建物跡6棟を主体に旧石器～古墳時代にかかる遺構・遺物が発見された。15の根上神社古墳は、全長50m市内最大の前方後円墳で周溝部分の調査が実施された。6世紀代の築造と想定される。[参考文献は裏表紙前に掲載]





- | | | | |
|----------|----------|-----------|-----------|
| 1 殿内遺跡 | 2 村上宮内遺跡 | 3 西山遺跡 | 4 大塚遺跡 |
| 5 村上向原遺跡 | 6 大塚南遺跡 | 7 名主山遺跡 | 8 村上込ノ内遺跡 |
| 9 浅間下遺跡 | 10 持田遺跡 | 11 正覚院館跡 | 12 境作遺跡 |
| 13 浅間内遺跡 | 14 白筋遺跡 | 15 根上神社古墳 | |

第1図 殿内遺跡周辺の遺跡



第2図 調査地点

殿内遺跡各地点の概要

：参考文献は裏表紙前に掲載

地点	調査面積 (㎡)	遺構	遺物	調査期間	備考
a	800	奈良時代竪穴建物1棟	奈良時代須恵器坏・土師器甕	s 60年11月13日～s 61年1月13日 [境作遺跡調査含む]	市遺跡調査会・本調査
b	5350	弥生時代方形周溝墓1基、古墳時代前期竪穴建物1棟、奈良平安時代竪穴建物36棟・掘立建物1棟・ピット40基、近世墓坑5基	槍先形尖頭器、縄文時代早期、中期土器・石鎌・土器片、古墳時代前期土師器、奈良平安時代土師器・須恵器・畿内産土師器・緑釉陶器・鉄製品・青銅製帯金具、近世煙管・銭貨	[第1次本調査] h 2年10月22日～h 3年7月11日 [第2次本調査] h 4年6月19日～9月10日	市教育委員会・本調査
c	643/499.95	奈良平安時代竪穴建物7棟・掘立柱建物2棟・土坑9基	奈良平安時代土師器・須恵器、近世陶磁器・寛永通宝	h 17年11月17日	市教育委員会・確認調査
d	48/456	古墳時代竪穴建物1棟、奈良平安時代竪穴建物1棟・土坑2基	古墳時代土師器、奈良平安時代土師器・須恵器	h 26年7月4日～7月10日	市教育委員会・確認調査

第2章 検出された遺構と遺物

第1節 縄文時代

今回の野外調査では縄文時代前期（浮島・興津期）の土坑1基を検出した。また、整理作業による出土遺物の分類・接合の過程で、縄文時代前・中・後期の土器片を抽出したため、併せて以下に報告する。

O1P（第4図・図版2）

位置：調査区最南部（単独検出）。**確認面：**Ⅲ層上面。**長軸方位：**N-28°-E。**規模・平面形：**2.02m×0.8m×0.6mの隅丸長方形。壁：底面より垂直気味に立ち上がる。**底面：**やや凹凸あり。**覆土：**7層に分層（暗褐色土系と褐色土系）。**遺物：**覆土上層より縄文前期土器1片が出土。**所見：**出土遺物および覆土の状況から、浮島・興津期（にはほぼ埋没していた）土坑と判断した。なお、用途を特定できるほどの痕跡は認められなかったが、土坑形態や覆土の状況から察すると、落とし穴や墓塚などの機能が考えられる。ただし、周辺の調査例から、類例は得られていない。

出土遺物（第4図・図版3）

1は浮島・興津式の口縁部片。口唇上に半裁竹管による連続斜位刺突+ヘラ切り文。



第4図 O1P遺構実測図・出土遺物

遺構外出土の縄文式土器（第5図・図版3）

1は関山I式（二ツ木式（古段階））の胴部片。胎土に繊維を含む。縄文は末端環付による幅狭等間隔



第5図 遺構外出土の縄文式土器

の横帯施文。屈曲部（口縁部と胴部の区画）には、刻み付き隆帯を貼付。口縁部基幹文様の摺糸側面圧痕が僅かに残る。2は無文の胴部（下半部）片。属性に乏しいが前期後半ないしは後期前葉（堀之内式粗製）か。3は堀之内1式の粗製土器。櫛歯状施文具による蛇行沈線文。

第2節 奈良・平安時代

今回の調査においては、9世紀初頭～10世紀後半の堅穴建物跡5棟、ピット4基を検出した。なお、ピットについては、第3節として扱った。以下報告する。

01D（第6図・図版1.3）

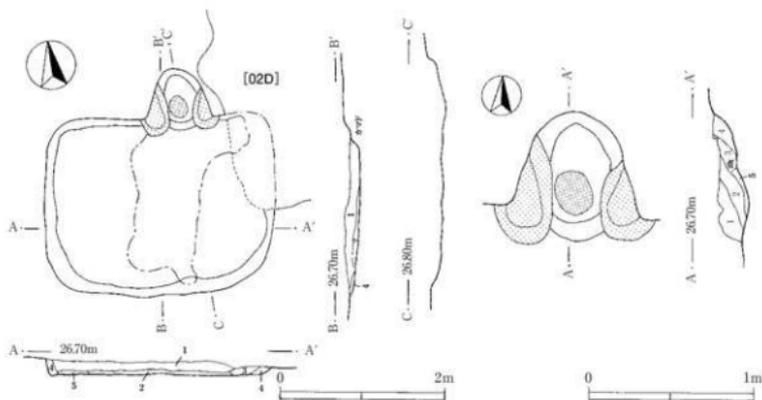
位置：南調査区中央。確認面：Ⅱc層中。主軸方位：N-18°-Eでやや東に振れている。重複関係：02D覆土中に貼り床があり、遺物の時期差から02Dを切る。規模・平面形：2.78m×2.14m×深さ0.14mの隅丸長方形。壁：床面から緩やかに立ち上がる。床面：Ⅲ層を10cm程度掘り込み地床とする。カマド焚口前から直線状に硬化面が遺存し、壁立ち上がりまで及ぶ。カマド：北壁やや東寄りに壁を掘り込んで作られる。焚口部は浅い掘り込みで、焚口部前方に明瞭な火床部があり、強く焼けている。煙道へは火床部手前から緩く、煙道部末端で角度をもって立ち上がっている。袖部は土台に黒色土と焼土の混合土を積み、先端で白色砂質粘土を使用している。また、左袖横壁に幅3cm、長さ10cmの白色砂質粘土が遺存していた。覆土：5層に分層。自然堆積層である。遺物出土状態：トータルステーションで37点出土している。床面に近い高さからの出土が主体。掲載遺物は全てカマド内で、特に1.2は火床部奥に倒位で重ねられた状態で出土している。カマド廃絶儀礼に伴う遺物と想定される。

02D（第7～9図・図版3.4）

位置：南調査区南側。確認面：Ⅱc層中。主軸方位：N-108°-Wで西に大きく振れている。重複関係：01Dに切られる。規模・平面形：3.62m×3.6m×深さ0.4mの方形。壁：周溝からはほぼ垂直に立ち上がる。床面：ハードロームを5～10cm掘り込み、黒色土とロームブロックを埋めなおした貼り床である。周溝：全周し、カマド袖下で立ち上がる。幅15～17cmで深さ10cm。カマド：西壁中央に壁を掘り込んで作られる。焚口部はやや深い掘り込みで、20～25cm程度である。煙道立ち上がり手前に火床部があり、25cmの不整形形状で強く焼けている。煙道立ち上がりは火床部手前から角度をもって立ち上がっている。煙道の切れ込みは浅い。袖部の構築は、淡灰色砂質粘土を積み上げている。ピット：カマド対面の壁手前に出入口ピットが遺存する。横60cm×40cmの半円形で、ローム・黒色土の混合土でロームブロックを混入する。覆土：15層に分層。中層以下は廃棄時の埋戻しで、上層は自然堆積層か。遺物出土状態：トータルステーションで603点出土しているが、覆土中からの出土が主体である。カマド内・覆土中位以下の遺物と上位の遺物に時間差が見られる。

03D（第10.11図・図版2.4.5）

位置：北調査区北側。確認面：Ⅱc層中。主軸方位：N-32°-Wで西に振れている。重複関係：03Pに切られる。規模・平面形：2.6m×2.4m×深さ0.14mでややいびつな方形。壁：床面から緩やかに立ち上がる。床面：Ⅲ層上面から15cm程度掘り込まれた地床である。カマド前面に硬化面がみられるが、その周辺はやや軟弱で緩い凹凸がみられる。カマド：北壁中央に壁を掘り込んで作られる。焚口部は、袖前面に大きく張り出すが、浅い掘り込みで10cm程度である。焚口部中央に火床部があり、22～28cmの不整形形状で強く焼けている。煙道立ち上がりは焚口から火床部最奥部まで平らかで一気に角度をもって立ち上が

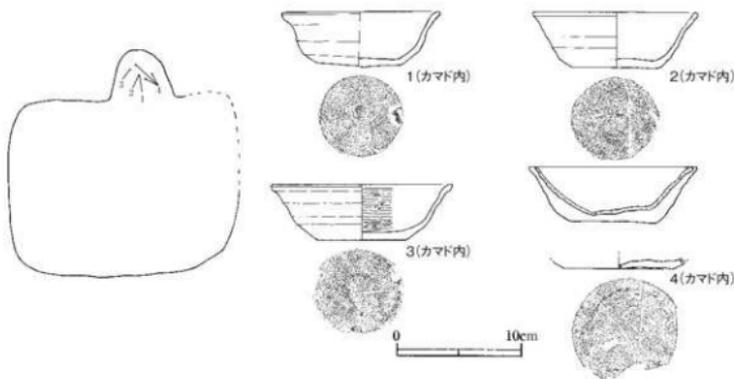


01D 土層説明

- 1: 暗褐色土 黒色土、ローム混合層。
- 2: 暗褐色土 1層類似。ローム粒多い。
- 3: 暗褐色土 黒色土、ローム混合層。粒子細かい。
- 4: 褐色土 ローム主に暗褐色土混入。
- 5: 褐色土 ローム土。

01D カマド土層説明

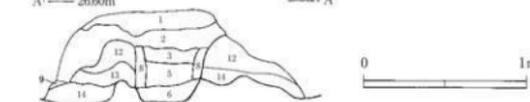
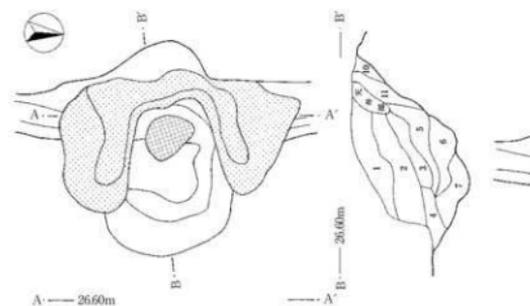
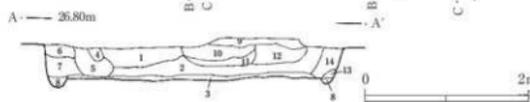
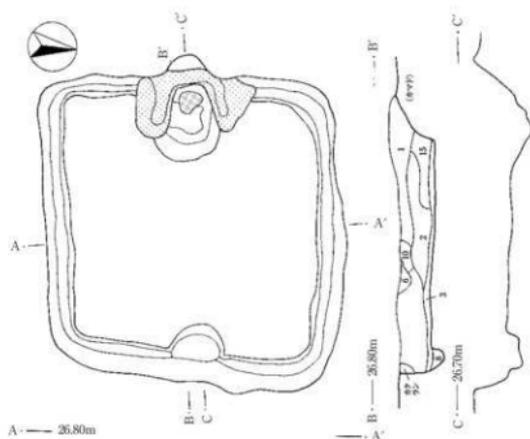
- 1: 暗褐色土 焼土粒、黒色土、ローム粒混合層。
- 2: 暗赤褐色土 焼土粒主体に黒色土少量混入。
- 3: 暗褐色土 ローム、黒色土混合層。
- 4: 暗褐色土 3層類似。3～4mm大の焼土粒点在。
- 5: 赤色土 焼土粒。



第6図 01D遺構実測図・出土遺物

01D 遺物観察表

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等	
		器高	口径	底径				
1	土師器 環	定形	4.6	12.7	6.7	茶褐色 一部黒炭	長石	ロク口成形。底部回転ヘラ切り難し。 体部下端回転ヘラ削り。内外面まで。
2	土師器 環	ほぼ定形	4.5	13.4	6.9	橙褐色 一部黒炭	長石、赤色粒 黒色粒	ロク口成形。底部回転糸切り難し後周縁及び体部下端 回転ヘラ削り。口縁部内外面まで。深いU字状の打ち欠き。
3	土師器 環	口縁部～体部1/2	4.5	14.7	7.0	淡茶褐色	雲母、長石	ロク口成形。底部回転糸切り難し後周縁及び体部下端 回転ヘラ削り。体部内面側位、斜位ヘラ削き。
4	土師器 類	底部全周	0.9	-	9.0	暗茶褐色	雲母、長石 赤色粒	ロク口成形。底部回転糸切り難し後周縁及び体部下端 回転ヘラ削り。



02D 土層説明

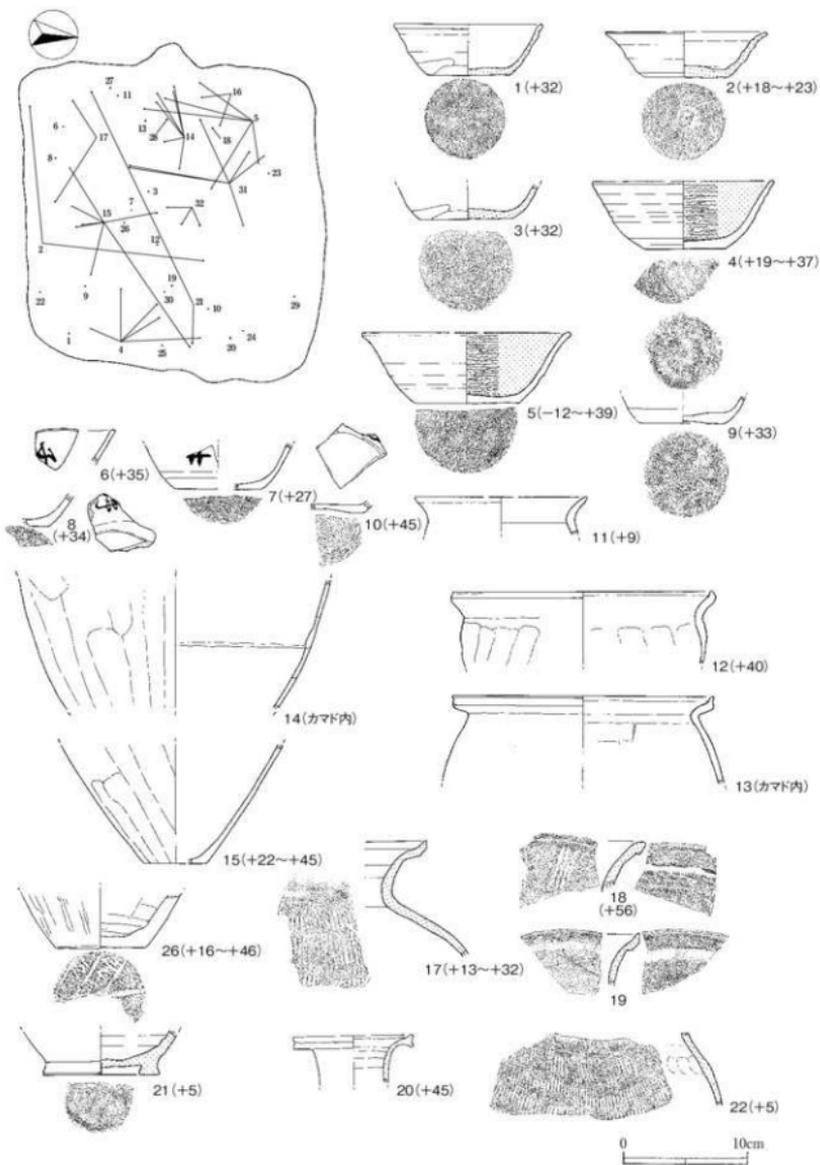
- 1: 暗褐色土 ローム、黒色土混合層。2~3mm 大の焼土粒混入。
- 2: 暗褐色土 1層類似。ローム粒やや多い。
- 3: 褐色土 ローム粒主に黒色土混入。
- 4: 褐色土 3~5mm 大の焼土粒、淡灰色粘土含む。
- 5: 褐色土 ローム、黒色土混合。3~5mm 大のローム粒、炭化粒混入。
- 6: 褐色土 ローム床点状に含む。
- 7: 褐色土 黒色土、ローム、ロームブロック、焼土粒混合。
- 8: 褐色土 ローム主に暗褐色土混入。
- 9: 暗褐色土 6層類似。ローム粒の混入やや少ない。
- 10: 暗赤褐色土 焼土粒、黒色土、ローム粒混合。
- 11: 暗褐色土 10層類似。焼土粒少ない。炭化粒含む。
- 12: 暗褐色土 焼土粒全体に含む。
- 13: 暗褐色土 ローム、黒色土混合。
- 14: 暗褐色土 黒色土、ローム混合。3~4mm 大の焼土粒混入。
- 15: 淡灰褐色土 灰色粘土主に黒色土混合。焼土ブロック混入。

[カマド掘り方]

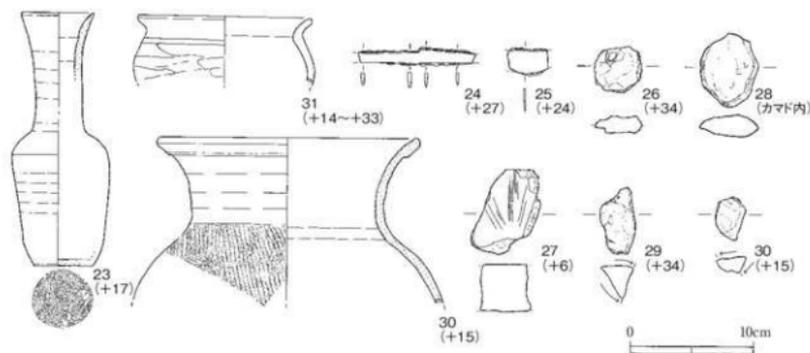
02D カマド土層説明

- | | | |
|---------------------------------|-----------|------------------------------|
| 1: 暗灰褐色土 灰色粘土、黒色土混合層。 | 9: 褐色土 | 2mm 大のローム粒、ローム土混入。周溝覆土。ローム土。 |
| 2: 暗褐色土 黒色土、ローム粒混合。焼土粒、炭化粒ごく少量。 | 10: 褐色土 | 焼土粒、黒色土、灰色粘土混合層。 |
| 3: 赤灰色土 灰色粘土、焼土粒混合層。 | 11: 暗赤褐色土 | カマド補本体。 |
| 4: 暗褐色土 黒色土主に3~4mm 大の焼土粒、ローム粒点。 | 12: 淡灰色粘土 | 焼土粒、ロームブロック、黒色土混合層。 |
| 5: 暗褐色土 黒色土主に、灰色粘土少量混入。 | 13: 暗褐色土 | 黒色土、ローム混合層。周溝覆土。 |
| 6: 赤色土 焼土ブロック主にロームブロック混入。 | 14: 暗褐色土 | |
| 7: 暗褐色土 黒色土主にローム、灰色粘土少量含む。 | | |
| 8: 暗灰褐色土 灰色粘土と焼土化粘土。 | | |

第7図 02D遺構実測図



第8図 02D出土遺物(1)



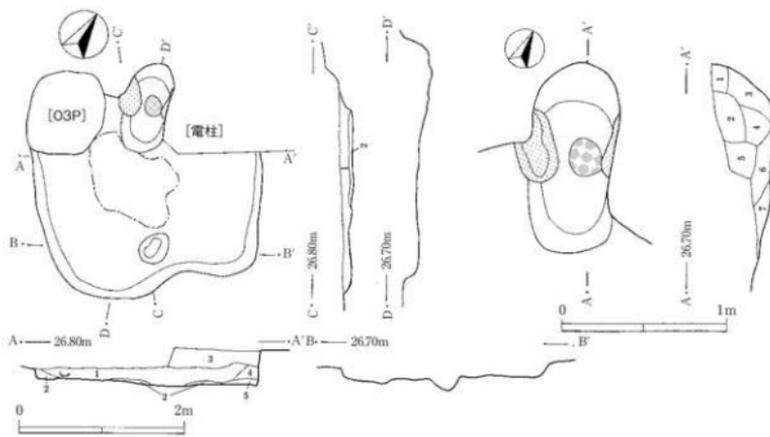
第9図 O2D出土遺物(2)

O2D 遺物観察表(1)

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等	
		器高	口径	底径				
1	須恵器 環	1線部~底部2/3	4.1	120	6.5	黒灰色	長石, 小石粒	ロクロ成形, ちがみ大きい。底部外面及び体部下端手持ちへう開り。
2	須恵器 環	1線部1/3 底部全周	3.7	13.0	7.0	暗茶褐色	雲母, 長石 石英	ロクロ成形。体部外面下端回転へう開り。
3	須恵器 環	底部1/12全周	2.9	-	7.5	淡灰色	長石	ロクロ成形。体部外面下端手持ちへう開り。体部内面中央磨り痕遺着。
4	土師器 環	1線部~底部1/3	5.5	14.6	6.4	外橙褐色 内橙褐色~茶褐色	雲母	ロクロ成形。底部外面及び体部下端回転へう開り。体部内面横位へう開き。内面黒色処理。
5	土師器 環	1線部~底部1/3	5.7	16.9	8.4	外淡橙褐色,一部 黒色 内淡黒色	黒色粒, 白色粒	ロクロ成形。底部外面及び体部下端回転へう開り。体部内面黒色処理へう開き。
6	土師器 片	1線部片	-	-	-	淡褐色	赤色粒, 白色粒 黒色粒	ロクロ成形。体部外面に「子」の磨着。
7	土師器 環	体部~底部片	3.7	-	7.0	淡橙褐色	雲母, 黒色粒	ロクロ成形。回転糸切り磨し後周縁及び体部下端へう開り。体部外面正位に「井」磨着。
8	土師器 環	底部片	-	-	-	淡橙褐色	雲母, 白色粒	ロクロ成形。回転糸切り磨し後周縁及び体部下端回転へう開り。体部外面に横位(不明)磨着。
9	土師器 環	底部全周	2.3	-	7.2	淡橙褐色	雲母, 白色粒	ロクロ成形。回転糸切り磨し後周縁及び体部下端へう開り。体部内面に「×」の變成面へう開き。
10	土師器 環	底部1/4	1.2	-	-	淡褐色	雲母, 赤色粒 白色粒	ロクロ成形。回転糸切り磨し後周縁及び体部下端へう開り。体部外面に不明磨着。
11	土師器 小型壺	1線部1/4	3.1	14.0	-	外赤褐色 内茶褐色	雲母, 長石 赤色粒	1線部横なで。胴部外面横位へう開り。1線部内面に1.2cm幅の帯状灰付着。
12	土師器 壺	1線部~胴部1/4	6.0	21.0	-	暗茶褐色	雲母, 白色粒	1線部横なで。胴部外面横位へう開り。胴部内面横位へう開り。
13	土師器 壺	1線部~胴部1/4	7.0	21.2	-	外茶褐色 内暗茶褐色	雲母, 長石 石英	1線部~胴部外面なで。胴部内面へう開り。
14	土師器 壺	胴部片	-	-	-	淡橙褐色	長石, 黒色粒 小石粒	胴部外面横位へう開り。胴部内面なで。
15	土師器 壺	胴部下半~ 底部1/3	9.8	-	5.0	淡橙褐色	長石, 黒色粒 小石粒	胴部外面横位へう開り。胴部内面なで。
16	土師器 壺	底部2/3	4.6	-	7.4	外暗茶褐色,灰付帯 内淡褐色	雲母, 石英	胴部外面横位へう開き。胴部内面へう開り。で、で。底部外面木炭着。
17	須恵器 壺	1線部~胴部片	-	-	-	暗灰色	長石, 小石粒	1線部横なで。胴部外面横位平行叩き目文。胴部内面へう開り。
18	須恵器 壺	1線部片	-	-	-	暗灰色	雲母, 長石	ロクロ成形。胴部内面へう開り。
19	須恵器 壺	1線部片	-	-	-	暗灰色	長石, 赤色粒 小石粒	ロクロ成形。内外ロクロなで。内面に「×」の變成面へう開き。
20	須恵器 長頸瓶	1線部1/3	4.0	9.8	-	茶色~緑灰色	ち密	ロクロ成形。内外ロクロなで。
21	須恵器 長頸瓶	胴部下半~ 底部2/3	3.6	-	9.1	灰色	ち密	ロクロ成形。内外ロクロなで。底部内面に軸着(緑灰色)
22	須恵器 頸部	頸部~胴部上半	-	-	-	外淡灰色 内淡緑灰色	雲母, 長石 石英	胴部外面横位平行叩き目。胴部内面磨なで。なし。写二片遺着。
23	須恵器 長頸壺	1線部全周 欠損	20.5	5.9	4.9	灰白色~暗灰色	ち密	ロクロ成形。ロクロなで。底部回転糸切り磨し。
24	鉄器 刀子	柄~刃部 刃, 柄端	長 9.5 幅 1.4	厚 0.3 重さ 16.1g				
25	鉄器 不明	両端欠損	長 3.2 幅 1.9	厚 0.12 重さ 5.2g				
26	石	円形	全長 3.8 幅 3.9	厚さ 1.4 重さ 21.6				
27	砥石	砥石片	全長 6.9 幅 4.5	厚さ 4.0 重さ 173.4g				
28	雲母片 岩	楕円形	全長 6.0 幅 4.7	厚さ 1.6 重さ 33.3g				

02D 遺物観察表 (2)

29	軽石	軽石片	全長 5.4	幅 3.0	厚さ 2.8	重さ 6.8g		二面において磨られている範囲あり。
30	軽石	軽石片	全長 3.4	幅 2.3	厚さ 1.3	重さ 1.9g		二面において磨られている範囲あり。
31	土師器 小形壺	1層部 1/2 強	55	13.6	-	茶褐色 保存番	蓋母	1層部横手で、胴部外面横位へラ削り。 胴部内面全で。
32	土師器 壺	1層部一 強部上半 1/2 強	133	21.0	-	淡青灰色	白色粒、小石粒	1層部全で、木口状工具による内面全で、胴部外面 横位向き目文。胴部内面へラ全で、全で。



03D 土層説明

- 1: 暗褐色土 黒色土主に焼土粒、炭化粒含む。ローム粒少量。
- 2: 褐色土 ローム土主に黒色土少量混入。
- 3: 暗褐色土 1層類似。1層より黒色土少ない。
- 4: 暗褐色土 1層類似。1層より黒色土多い。
- 5: 暗褐色土 ローム、黒色土混合層。

03D カマド土層説明

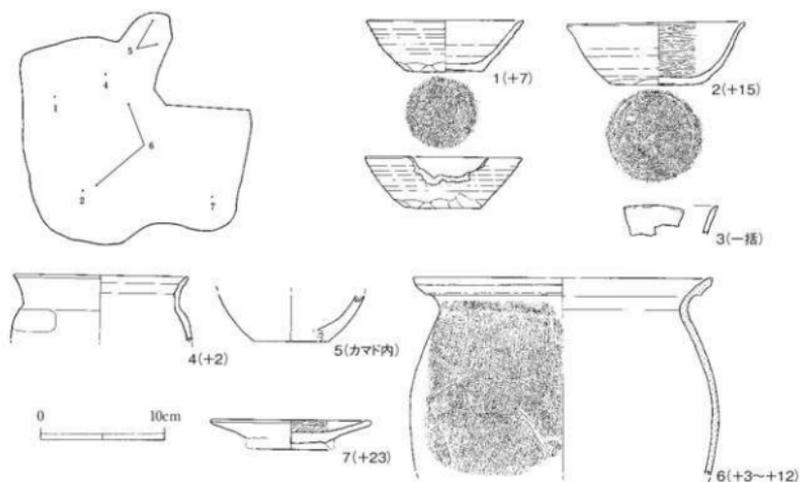
- 1: 暗褐色土 ローム土、黒色土混合層。カクランか。
- 2: 灰褐色土 灰色粘土、黒色土、ローム混合。焼土粒点在。
- 3: 暗褐色土 黒色土主に焼土粒、炭化粒、焼土ブロック混入。
- 4: 茶褐色土 灰色粘土、ローム土、黒色土混合層。
- 5: 赤茶褐色土 焼土ブロック、灰色粘土少量含む。黒色土、ローム混合層。
- 6: 黒褐色土 炭化粒主に焼土粒ごく少量。
- 7: 褐色土 ローム土。床か。

第10図 03D遺構実測図

っている。煙道の切れ込みはU字状に深い。袖部の構築は、土台に黒色土と焼土粒・焼土ブロックの混合土を積み、先端に淡灰色砂質粘土を使用している。ピット：カマド対面の壁手前に出入口ピットが遺存する。40cm×32cm×深さ17cmの円形で、黒色土主にローム粒を混入する層。覆土：5層に分層。黒色土主体の自然堆積層である。遺物出土状態：トータルステーションで78点出土しているが、床面に近い高さからの出土が主体である。掲載遺物は、ほぼ同時期に想定される。1の打ち欠き土器は、正位で出土している。

04D (第12図・図版2.5)

位置：北調査区南側。確認面：Ⅱc層中。主軸方位：N-126°-Eで東に大きく振れている。規模・平面形：4.2m(想定)×3.25m×深さ0~0.15mのいびつな長方形。壁：遺存のよい部分ではほぼ垂直に立ち上がる。床面：Ⅲ層上面で、硬化面は見られず全体的に軟弱である。カマド：詳細については判断が難しい。プラン確定時は概ね黒褐色土や焼土範囲を含めてラインを想定し、U字状の淡灰色砂質粘土範囲をカマドの煙道部分としたものである。粘土範囲を袖と想定し、袖の中央に28cm×34cmの焼土ブロック範囲があり、火床部とした。位置としては東壁中央に壁を掘り込んで作られる。ピット：南壁際に2か所



第11図 O3D出土遺物

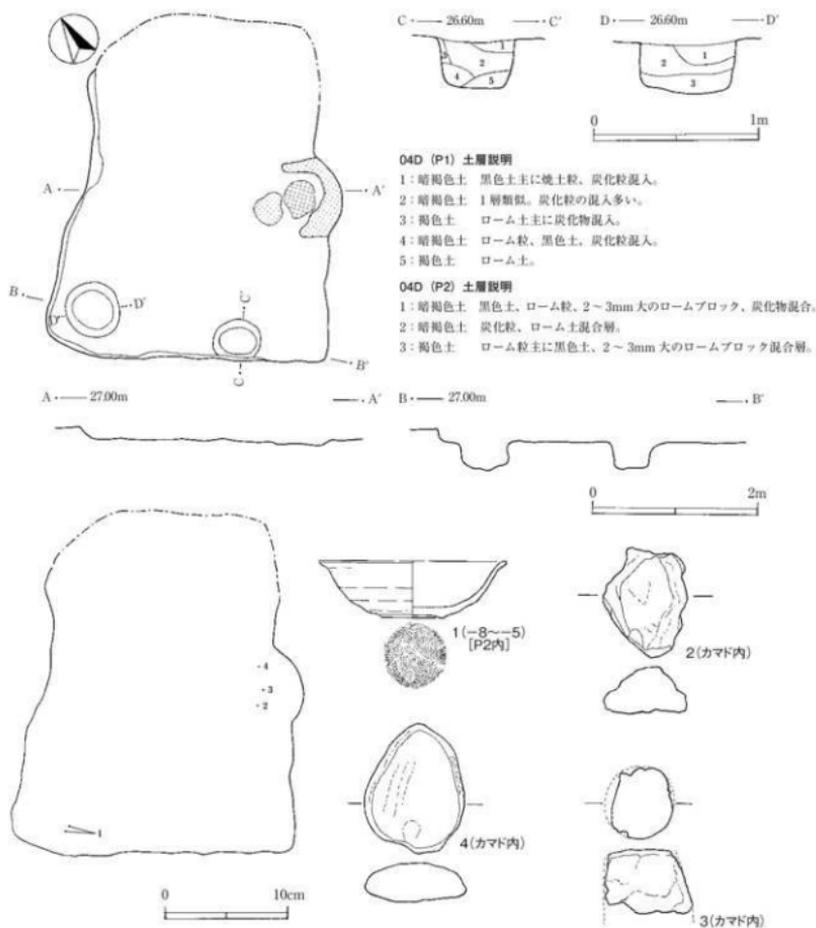
O3D 遺物観察表

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 土師器 環	ほぼ完形 口縁部打ち欠き	4.3	12.8	5.8	淡茶褐色	雲母、長石 白色粒	ロクロ成形。切り離し不明。底部、体部下端手持ち ヘラ削り。
2 土師器 碗	口縁部2/3 底部全周	5.3	15.0	7.8	外淡橙褐色 内淡茶褐色	雲母、白色粒	ロクロ成形。底部回転糸切り離し後周縁及び体部下端 回転ヘラ削り。体部内面横位ヘラ磨き。
3 土師器 碗	口縁部片	-	-	-	淡橙褐色	雲母、黒色粒	内外面なで。
4 土師器 小型 壺	口縁部~頸部1/5	5.3	14.0	-	茶褐色	雲母、砂粒	口縁部なで。胴部外面横位ヘラ削り。胴部内面なで。
5 土師器 壺	胴部~底部1/5	3.8	-	6.0	淡橙茶褐色	長石、石英 黒色粒	ロクロ成形。底部回転糸切り離し後未調整。
6 須恵器 壺	口縁部~胴部1/4	15.9	24.2	-	赤茶褐色	雲母、白色粒	口縁部内外ロクロなで。胴部外面縦位平行叩き目。 胴部内面なで。
7 土師器 皿	口縁部~底部2/3	2.0	13.1	-	橙褐色	雲母、白色粒 赤色粒	ロクロ成形。高台部全周欠損。体部外面ロクロなで。 体部内面横位、斜位ヘラ磨き。

みられる。P1は58×42cmで深さ32cm、P2は70×64cmで深さ38cmで、両ビットとも暗褐色土に炭化粒を含んだ層が主体である。この層はプラン確定時に確認した土層であり、ビットは本遺構に伴うと考える。遺物出土状態：トータルステーションで43点出土しているが、土器小片・焼土ブロックを含めた点数である。P2内から1が出土しており、本遺構に伴う。

O5D (第13.14図・図版2.5)

位置：北調査区中央。確認面：Ⅱc層中。主軸方位：N-68°-Eで大きく東に振れている。規模・平面形：南辺3.35m・北辺2.42m×4.25m×深さ0.07mの台形。壁：掘り込みが浅く、緩やかに立ち上がる。床面：Ⅱc層下層~Ⅲ層上面の地床である。硬化面がカマド焚口前から南壁に沿って遺存する。カマド：東壁南寄りに壁を掘り込んで作られる。焚口部は見られず、焼土ブロックを含む若干焼けた範囲が楕円形状にみられる。壁の掘り込みがU字状になされ、煙道と想定される。この掘り込みに沿って灰色砂質粘土を貼りつけた地点が3か所確認された。明確な袖部分は見られない。U字状掘り込み土層断面においては、焼土粒・焼土ブロックを少量含む暗褐色土が主体で、明確なカマド使用の実態がつかめなかった。ビット：北壁西コーナーにP1がみられる。86×60cm、深さ42cmで黒色土主体の焼土粒・炭化粒を含む

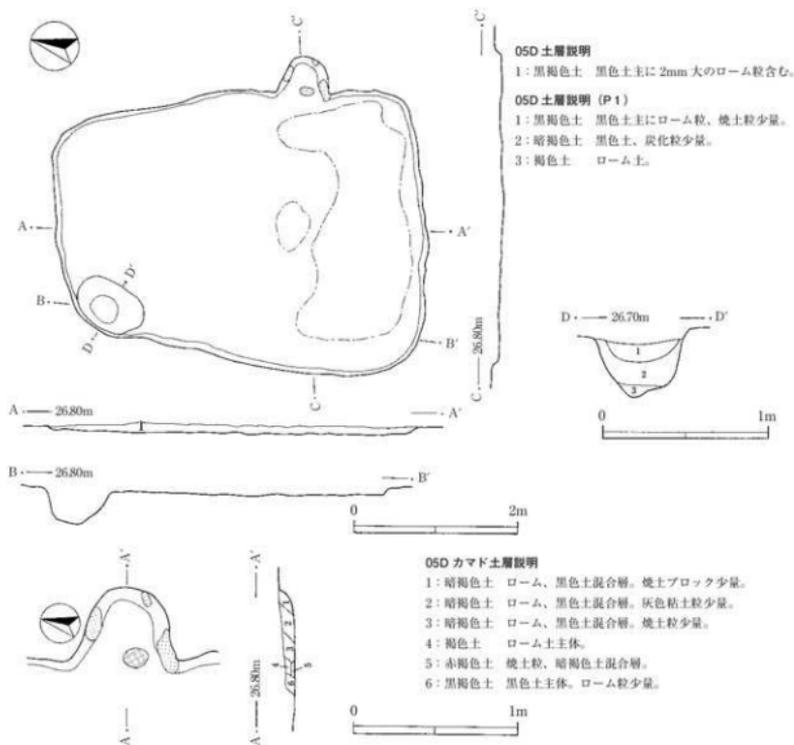


第12図 O4D遺構実測図・出土遺物

O4D 遺物観察表

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 土師器 碗	口縁部1/4	4.6	15.2	5.1	淡茶褐色	雲母・長石 白色粒	ロクロ成形。ロクロなので。底部回転切り難し後未調整。
	底部全周						
2 土製品 不明	破片	全長	幅	厚さ	重さ		
		8.6	6.9	3.6			
3 土製品 支脚	破片	全長	幅	厚さ	重さ		
		5.4	7.1	5.0			
4 石製品 不明	破片	全長	幅	厚さ	重さ		砂質片岩。
		10.6	8.0	3.1			

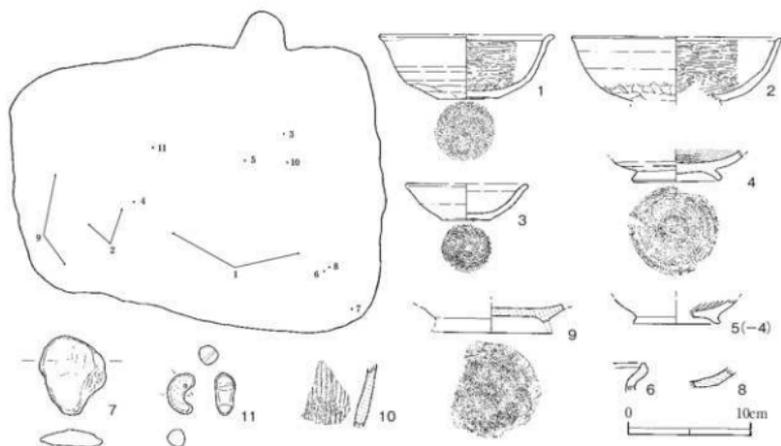
層である。壁際に位置しており本遺構に伴う。覆土：1層に分層。黒褐色土の自然堆積層である。遺物出土状態：トータルステーションで68点出土しているが、ほぼ床面上から出土している。8～10は8世



第13図 O5D遺構実測図

O5D 遺物観察表

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1	土師器 埴 口縁部1/5 底部全周	5.2	14.2	5.0	淡茶褐色	雲母、白色粒	ロクロ成形。体部内面横位、斜位へラ磨き。底部及び体部下端手持ちへラ削り。
2	土師器 埴 口縁部～ 体部下端1/5	5.2	17.0	-	淡橙褐色～ 橙褐色	石英、白色粒	ロクロ成形。体部外面ロクロなで。体部下端手持ちへラ削り。体部内面横位、斜位へラ磨き。
3	土師器 埴 口縁部1/4 底部全周	3.0	10.0	4.0	橙褐色 一部黒斑	雲母、白色粒	ロクロ成形。底部回転切り難し後未調整。
4	土師器 埴 高台部全周	2.4	-	6.7	外茶褐色 内赤褐色	雲母、石英	ロクロ成形。高台部貼り付け。体部外面ロクロなで。体部内面赤彩。底面までへラ磨き。
5	土師器 埴 高台部1/2	2.0	-	6.8	淡橙褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒	ロクロ成形。体部外面ロクロなで。体部内面へラ磨き。
6	土師器 埴 口縁部片	-	-	-	橙褐色	雲母、白色粒 黒色粒、赤色粒	内外なで。
7	石製品 不明	全長 6.4	幅 3.5	厚さ 1.4	重さ 55.7	-	雲母片岩。
8	須臾器 埴 底部片	-	-	-	外灰色 内淡黄緑灰色	ち密	ロクロ成形。体部外面へラ削り。
9	須臾器 埴 底部2/3	-	-	9.7	淡青灰色	雲母、石英	ロクロ成形。底部回転へラ削り。体部内面ロクロなで。
10	須臾器 埴 胴部片	-	-	-	灰色	雲母、石英	胴部外面縦位平行叩き目文。
11	石製品 勾玉	全長 3.4	幅 2.1	厚さ 1.5	重さ 19.4	-	ヒスイ製勾玉か、両面とも稜をたず丁家に研磨。穿孔は片側穿孔。



第14図 O5D出土遺物

紀後半～9世紀代の混入遺物である。11は床面精査中に床面直上で出土した。

第3節 ビット

ビットは、縄文時代の01Pを除外して、4基検出した。02P～05Pが奈良平安時代に属すると考える。

02P (第15図・図版2)

位置：北調査区南側。確認面：Ⅱc層。長軸方位：なし。規模・平面形：0.8m×0.72m×0.19mの円形。壁：底面から緩やかに立ち上がる。底面：概ね平坦。覆土：3層に分層。暗褐色土系の自然堆積層。遺物：覆土中より4点出土。奈良平安時代土師器坏。所見：出土遺物から、奈良平安時代の土坑と判断した。用途不明。

03P (第15図・図版5)

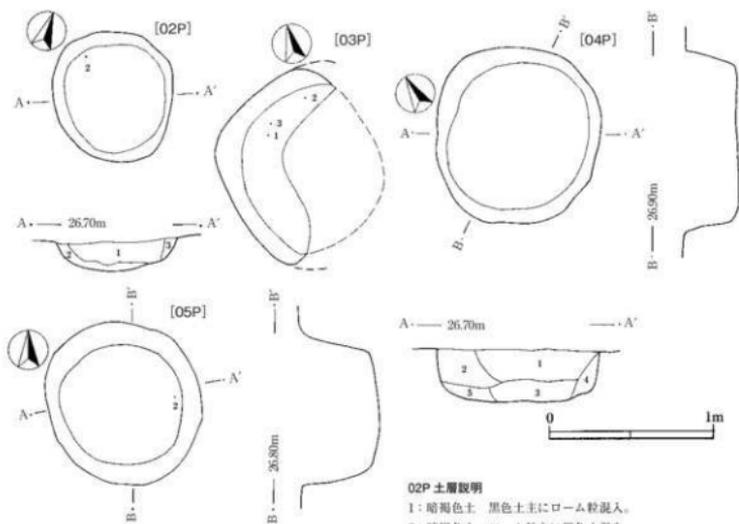
位置：北調査区北側。確認面：Ⅱc層。長軸方位：なし。重複関係：03Dを切る。規模・平面形：1.2m(想定)×1.1m(想定)×0.3mの略円形。壁：緩やかに立ち上がる。底面：ソフトローム中。遺物：10点出土。所見：出土遺物から、奈良平安時代の土坑と判断した。用途不明。

04P (第15図・図版3)

位置：北調査区北側。確認面：Ⅲ層。長軸方位：なし。規模・平面形：1.06m×1.0m×0.31mの円形。壁：底面から角度をつけて立ち上がる。底面：平坦である。ハードローム直上を底面とする。覆土：暗褐色土でロームブロックを含む層主体。全体にしまっており、人為的埋戻しか。遺物：18点出土。奈良平安時代土器片。所見：出土遺物および覆土の状況から、積極的ではないが、奈良平安時代の墓坑と判断した。

05P (第15図・図版3)

位置：北調査区北側。確認面：Ⅱc層。長軸方位：なし。規模・平面形：1.02m×0.92m×0.41mの円形。壁：底面から角度をつけて立ち上がる。底面：平坦である。ハードローム直上を底面とする。覆土：暗褐色土で黒色土を含む層主体。全体に締まる。遺物：2点出土。奈良平安時代土器片。所見：出土遺物および覆土の状況から、積極的ではないが、04P同様奈良平安時代の墓坑と判断した。



02P 土層説明

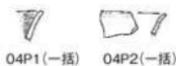
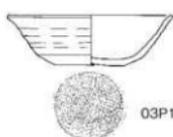
- 1: 暗褐色土 黒色土主にローム粒混入。
- 2: 暗褐色土 ローム粒主に黒色土混入。
- 3: 褐色土 ローム土主体。

04P 土層説明

- 1: 暗褐色土 黒色土、ローム粒混合層。部分的にロームブロック混入。焼土粒、炭化粒少量含む。
- 2: 暗褐色土 1層類似。黒色土の割合多い。炭化粒含む。しまる。
- 3: 暗褐色土 黒色土、ローム粒混合層。しまる。
- 4: 褐色土 ロームブロック主にローム土、黒色土混入。しまる。
- 5: 褐色土 ローム土主に黒色土少量混入。しまる。

05P 土層説明

- 1: 暗褐色土 黒色土、ローム粒混合層。焼土粒少量混入。
- 2: 暗褐色土 黒色土、ローム粒混合層。1層より黒色土少ない。
- 3: 暗褐色土 黒色土、ローム粒混合層。焼土粒、炭化粒少量混入。2~3cm 大のロームブロック混入。
- 4: 暗褐色土 ローム粒主に黒色土少量混入。しまる。
- 5: 褐色土 ロームブロック+暗褐色土。



第15図 02P~05P遺構実測図・出土遺物

02P 遺物観察表

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 土師器 環	口縁部片	-	-	-	淡橙褐色	長石、小石粒	ロクロ成形。内外なし。
2 土師器 環	底部片	-	-	-	暗茶褐色	長石、赤色粒	ロクロ成形。底部外面手持ちヘラ削り。 体部内面ロクロなし。

03P 遺物観察表

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 土師器 環	口縁部 1/2 底部全周	4.1	13.4	5.6	橙褐色 一部黒色	雲母、長石 赤色粒	ロクロ成形。底部回転糸切り離し後、周縁及び体部下端 回転ヘラ削り。口縁部～体部内外ロクロなし。
2 土師器 環	口縁部～底部 1/5	3.9	11.4	6.0	外淡茶褐色 内橙褐色	雲母、長石 赤色粒	ロクロ成形。底部回転糸切り離し後、周縁及び体部下端 回転ヘラ削り。体部内面ロクロなし。
3 土師器 環	口縁部～底部 1/2	3.3	12.4	6.4	外茶褐色 内漆黒色	雲母、白色粒	ロクロ成形。底部切り離し不明。底部及び体部下端 ヘラ削り。体部内面黒色処理後横位ヘラ磨き。

04P 遺物観察表

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 土師器 碗	口縁部片	-	-	-	外黒灰色 内漆黒色	長石	体部内面黒色処理後横位ヘラ磨き。
2 須恵器 環	口縁部片	-	-	-	淡灰色	ち密	ロクロ成形。口縁端外反。
3 須恵器 壺	体部～底部片	-	-	-	外茶褐色 内暗褐色	雲母、長石 赤色粒	ロクロ成形。内外ロクロなし。

05P 遺物観察表

器種	部位	計測値 (cm)			色調	胎土	調整・文様等
		器高	口径	底径			
1 土師器 環	体部片	-	-	-	淡橙褐色	雲母、小石粒	ロクロ成形。外面不明染書
2 土師器 壺	底部片	1.1	-	-	茶褐色	長石、白色粒	底部及び胴部下端ヘラ削り。

第3章 ま と め

第1節 縄文時代

今調査では、縄文時代前期前葉の関山Ⅰ式（二ツ木式（古段階））が1点出土した。口縁部の基幹文様を欠くが、市内の縄文空白期を埋める定点土器として設定をしたい。以下、本資料を通して、縄文時代前期前葉の本遺跡および周辺遺跡の動態をまとめる。

本遺跡の立地する新川中流域東岸を瞥見すると、当該期の土器片が少量かつ散漫と出土する1)。この傾向は「本拠地（居住域・集落形成地）から離れた外縁的な出土様相」を示し、本跡の立地する殿内支台一帯が「日常活動エリアの限界域」であったと評価される。一方、その本拠地として目されるのが、新川谷西岸（対岸）の白幡前遺跡d地点（関山期竪穴住居）、南海道遺跡（土器・磨石・石織など表採）である。新川中流域を臨む低台地上に立地する。折しも縄文前期海進期における鹹水化地点（宮内橋）を擁す地域であり、穏やかな内湾（古鬼怒湾最奥部）に支えられた環境であったと推測される。

したがって本跡は、集落形成地から新川を挟んだ東側における日常活動の限界域であったと考えられ、水上移動（釣り舟）を生活手段としていた集団の存在を想定しておきたい。

1) 関山式では持田遺跡c地点。前期中葉黒浜式を含めると浅間内遺跡、境作遺跡などで資料がまとまる。

第2節 奈良・平安時代

今回の調査において、本遺跡エリアの様相が少しずつ把握可能となってきた。検出された堅穴建物を時期で示すと以下のとおりである。

- ① 9世紀初頭（萱田Ⅳ期）・・・02D
 ② 9世紀中ば～後半（萱田Ⅵ期）・・・01D、03D
 ③ 10世紀後半（萱田Ⅸ期）・・・04D、05D

同一遺跡内のb地点においては、奈良時代初頭の8世紀前半前後に集住がみられ、古墳時代以降からの「自然村落」の様相を示している。8世紀代は同様の経過をたどるが、9世紀に入ると集落規模が縮小し、10世紀に再び集住化している。10世紀は律令解体期にあたるため、周辺の村上込ノ内遺跡・白幡前遺跡・上谷遺跡においては堅穴建物が激減する時期である。ここにおいて、集落経営上の人の移動が考えられる。殿内遺跡の人々は、「計画村落」である上記の遺跡へ動員されたのではないだろうか。今回の調査では、b地点への資料補強ができたことが成果となろう。

その他、ピットの形態から04P・05Pの企画性があげられる。2遺構とも、1m前後の円形で深く掘り込まれている。遺物は小片のみであるため性格は不明であるが、覆土の炭化粒・焼土粒・ロームブロックの混入からなんらかの意図があると想定される。b地点では、同様のピットが3基検出されている。

遺物では、02D出土の細頸壺（平城宮分類壺G）が覆土下層から出土している。仏教系遺物とも想定されるが、今回それを裏付ける証左は見られない。今後の課題である。人口遺物ではないが、02D・04D・05Dから雲母片岩ないし砂質片岩塊が出土している。細かい砂粒状になるため、研磨材ないし土器の混和材の可能性が有る。

参考文献

2009 八千代市教育委員会「千葉県八千代市 殿内遺跡b地点 - 公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ -」

報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよし とのうちいせきえふちてん							
書名	千葉県八千代市殿内遺跡b地点							
副書名	建売住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
編者名	森 竜哉							
編集機関	八千代市教育委員会							
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138番地2 TEL.047 (483) 1151代表							
発行年月日	平成30年3月15日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
殿内遺跡b地点	村上市殿ノ内1571-1他	12221	203	35度 43分 46秒	140度 7分 4秒	20170713 ～ 20170823	上層246	建売住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
殿内遺跡b地点	集落跡	縄文時代・古墳時代 奈良平安時代	奈良平安時代堅穴建物跡5棟 同時代ピット4基	縄文土器（前中後期） 奈良平安時代土師器・須恵器	
要約	調査において、奈良平安時代の堅穴建物跡5棟が検出された。本調査が実施されたa地点・b地点においても、主体となる時期は当該期であり、本遺跡の土地利用が部分的ではあるが明らかとなった。時間的には、9世紀初頭～後半・10世紀後半に集住の画期がみられる。				



01D 02D全景



03D ~05D全景



01D全景



01Dカマド全景及び遺物出土状況



02D遺物出土状況



02D遺物出土状況



02D全景



02Dカマド全景

図版2 遺構 [03D・04D・05D・01P・02P]



03D遺物出土状況



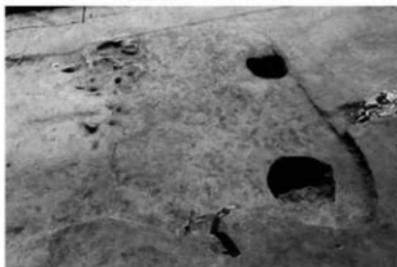
03D全景



04Dカマド全景



04D遺物・焼土出土状況



04D全景



05D全景

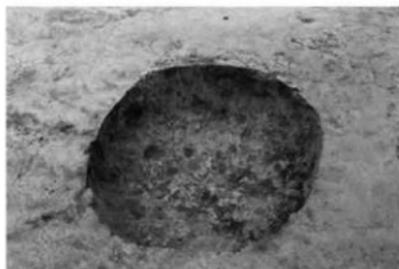


01P全景



02P全景

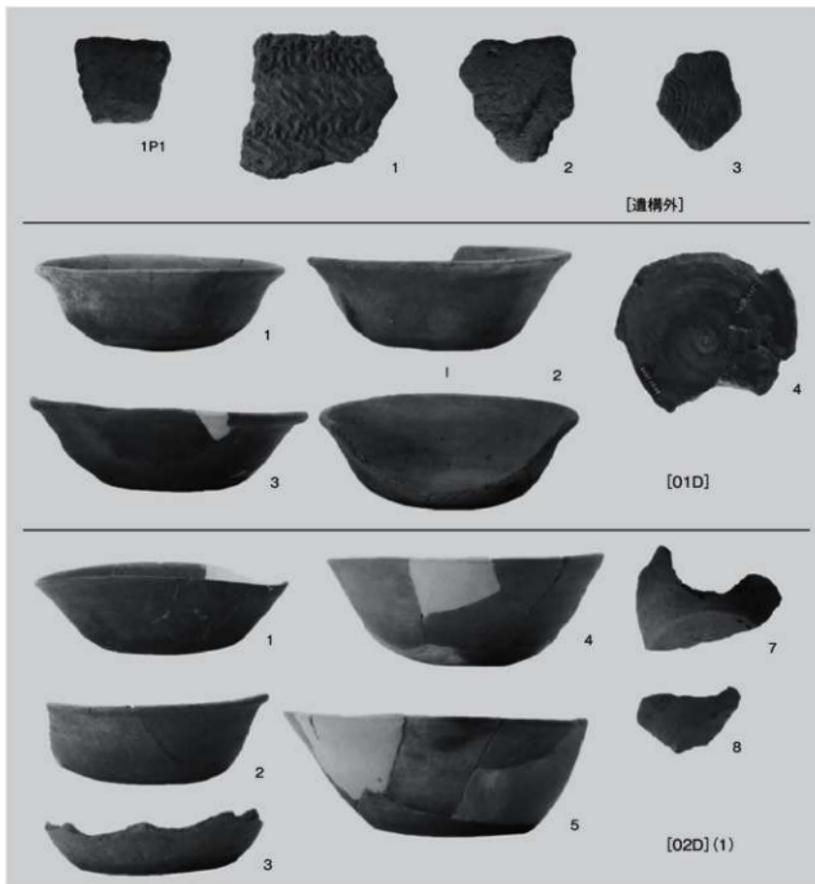
図版3 遺構 [04P・05P]・遺物 [縄文・01D・02D (1)]



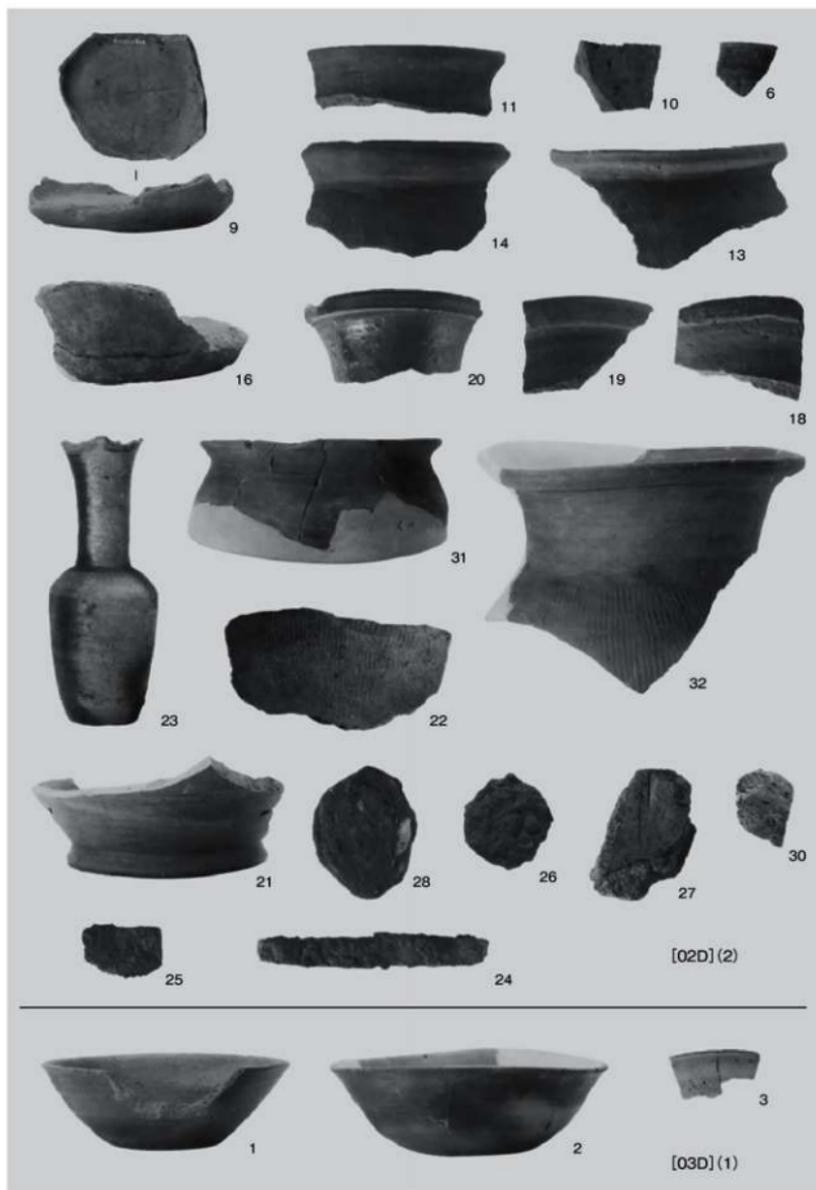
04P全景

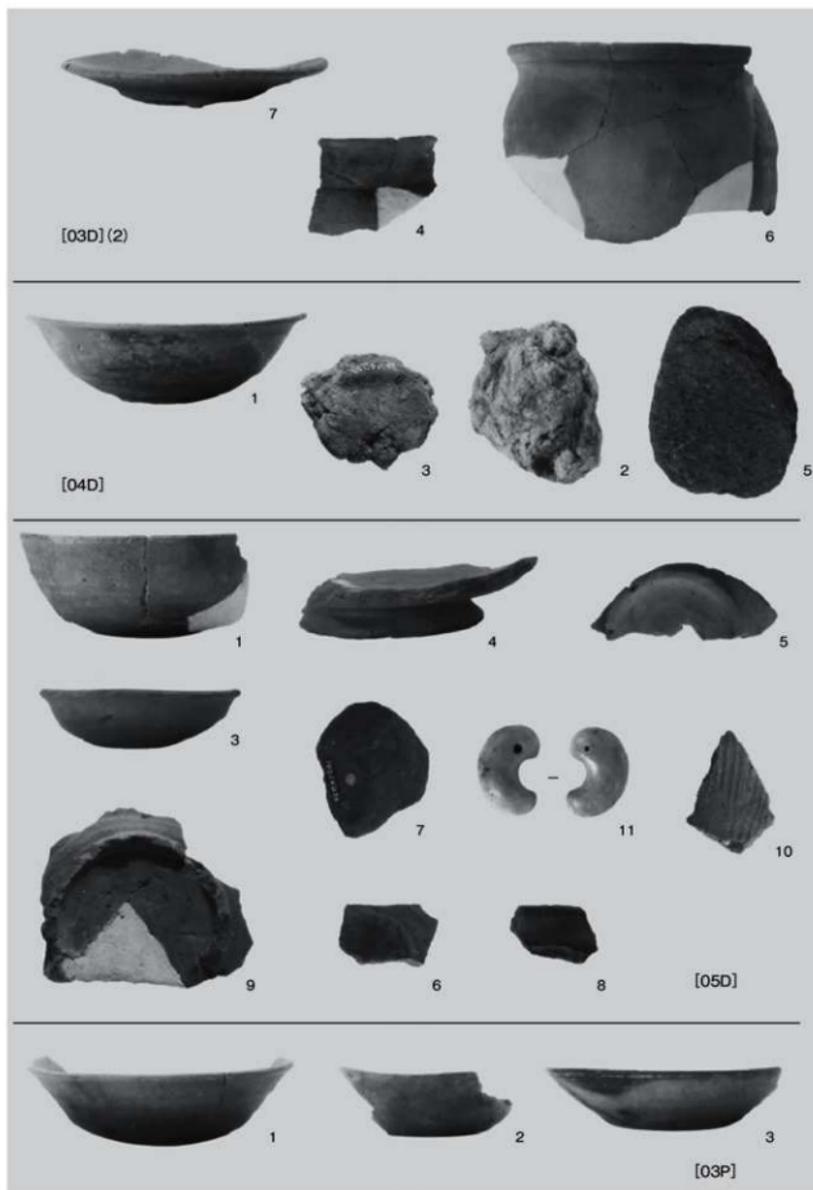


05P全景



図版4 遺物 [02D (2)・03D (1)]





第1章第3節 周辺の遺跡 参考文献

- 2 関連 1987 八千代市教育委員会「千葉県八千代市 埋蔵文化財発掘調査報告集」
2002 八千代市教育委員会「千葉県八千代市 市内遺跡発掘調査報告書 平成13年度」
- 3 関連 2011 八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市 西山遺跡 -埋蔵文化財発掘調査報告書-」
4. 5. 6. 8 関連 1975 財団法人千葉県都市公社「八千代市村上遺跡群」
- 7 関連 1972 名主山遺跡発掘調査団「名主山遺跡」
- 10 関連 1995 八千代市教育委員会「平成6年度八千代市埋蔵文化財調査年報」
- 11 関連 1999 八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市 正覚院館跡 -埋蔵文化財発掘調査報告書-」
1996 八千代市教育委員会「千葉県八千代市 市内遺跡発掘調査報告 平成7年度」
2006 八千代市教育委員会「千葉県八千代市 市内遺跡発掘調査報告書 平成17年度」
2009 八千代市「八千代市の歴史 通史編 上」p 376~384
- 12 関連 2015 八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市 境作遺跡 殿内遺跡 -大型店舗建設工事区域内埋蔵文化財発掘調査報告書-」
- 13.14.15 関連 2003 八千代市教育委員会「千葉県八千代市 浅間内遺跡発掘調査報告書」
2007 八千代市教育委員会「千葉県八千代市 浅間内遺跡発掘調査報告書」
2007 八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市 浅間内遺跡・白筋遺跡・沖塚遺跡 八千代市辺田前土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書」
2009 八千代市「八千代市の歴史 通史編 上」p 160~161

第1章第2図 調査地点 参考文献

- a 地点 2015 八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市 境作遺跡 殿内遺跡 -大型店舗建設工事区域内埋蔵文化財発掘調査報告書-」
- b 地点 2009 八千代市教育委員会「千葉県八千代市 殿内遺跡b地点 -公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ-」
- c 地点 2007 八千代市教育委員会「千葉県八千代市 市内遺跡発掘調査報告書 平成18年度」
- d 地点 2016 八千代市教育委員会「千葉県八千代市 市内遺跡発掘調査報告書 平成27年度」

千葉県八千代市
殿内遺跡 f 地点

— 建売住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

発行日	平成30年3月15日
編集	八千代市教育委員会 教育総務課 〒276-0045 八千代市大和田138-2 TEL 047-483-1151 (代表)
発行	川嶋 一水
印刷	金子印刷企画
